



新本っ子

学校通信 No. 32
令和3年11月発行
新本小学校
令和3年11月11日

【学校教育目標：豊かな人間性を持ち、実践力のある子どもを育成する】

新 自分で考える子 **本** 本気で取り組む子 **義** きまりを守る子 **民** みんな仲良く元気な子

～奉仕作業・通学路点検，ありがとうございました！！～

6日(土)の奉仕作業では，早朝8時よりご参加いただき，誠にありがとうございました。お陰様で，学校の裏山・マラソンコース，体育館，運動場と広範囲にわたって環境整備を行うことができました。きれいになった環境で気持ちよく快適に学習や生活できる喜びを感じています。

また，PTA補導部役員の皆様におかれましては，通学路の安全点検を実施いただき，誠にありがとうございました。点検結果に留意し，全教職員で児童の安全な登下校に生かしていくよう努めます。

なお，この度確認された危険箇所(路面表示の薄れ，路側帯不備，カーブミラー未設置等)については，各地区の土木委委員さんと相談し，市教委(行政機関)に「通学路安全要望書」を送付しましたことを申し添えます。



勇気(ゆうき)【11月2日 朝礼講話】



11月の品格目標は勇気です。勇気にちなんで，「モチモチの木」というお話の本を紹介します。主人公は，豆太(まめ)という5歳の男の子です。とても臆病で，夜中に一人でおしっこにもいきません。何しろトイレは外にあり，近くにあるモチモチの木が怖くて，じさま(おじいさん)と一緒に起きてついていってもらい，おしっこをする子でした。

そのモチモチの木に11月の20日の真夜中に灯(ひ)が灯ることになっていました。それはとてもきれいなものだったということでしたが，たった一人，しかも勇気ある子どもだけにしか見ることでできないということです。

豆太は，それじゃあととてもだめだと寝てしまいました。ところがその晩，じさまのおながが痛くなって苦しんでいる声で目を覚まします。転げ回ってうなるじさまを見た豆太は，思わずねまきのまま外へ飛び出します。そして，怖いのを我慢し，泣きながら暗い山道を駆け下りて，ふもとの村のお医者さんと呼ばびに行きます。

そして，お医者さんにおぶさってじさまのいる小屋についたとき，モチモチの木の灯(ひ)を見たのです。山の神様の祭りだという，きれいなきれいなモチモチの木の灯がついているのを…。

さて，皆さんはどう思いますか。豆太は本当に臆病な子だったのでしょうか。それとも，モチモチの木の灯を見たから勇気ある子どもになったのでしょうか。元気になったじさまは豆太に優しい言葉をかけます。

「自分で自分を弱虫だなんて思うな。人間，優しささえあれば，やらなきゃならねえことは，きっとやるもんだ…」と。

豆太は大好きなじさまが死んでしまうと思い，怖いのを我慢しながらお医者さんと呼ばびに夜道を走りぬきました。本当の勇気とは，豆太のように，いざとなったらやらなければならぬことができる人のことだと思います。

また，誰かを守ろう，誰かの力になろうと，優しい気持ちがあれば，人間，どんなことでも頑張れるんだなと言うことを教えてください。

正しい考えや優しい心をもった人なら，このような勇気のある人に，誰でもなれることだと思います。